

特別展「支倉常長像と南蛮美術—400年前の日欧交流—」 アンケート集計結果

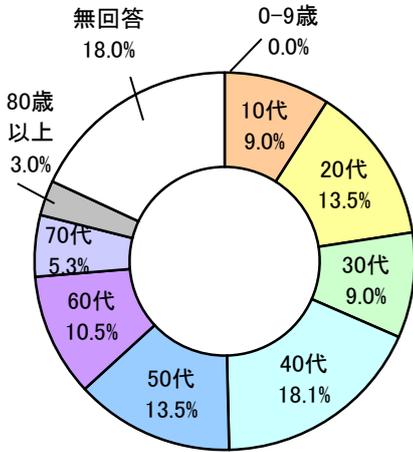
開催期間：平成26年2月11（火・祝） 3月23日（日）（36日間）

回答者数：133人（総入館者数：56,342人 アンケート回収率：0.24%）

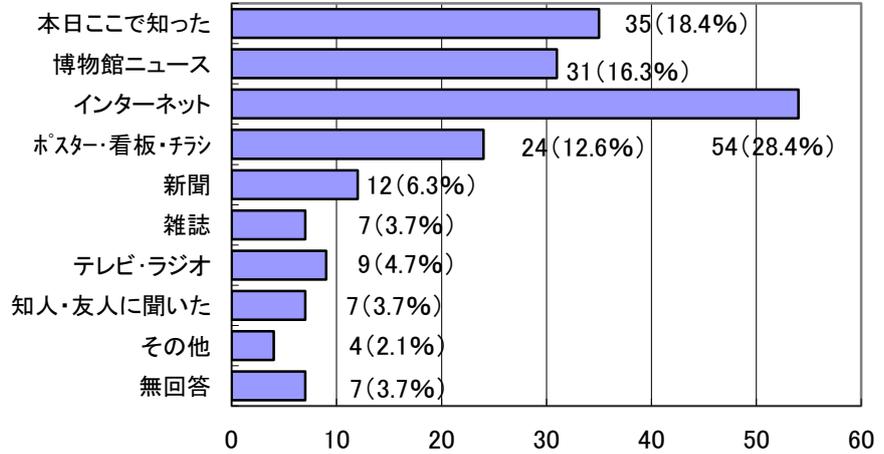
アンケート内訳：アンケート用紙 133人

※タッチパネル式はなし

①アンケート回答年齢層

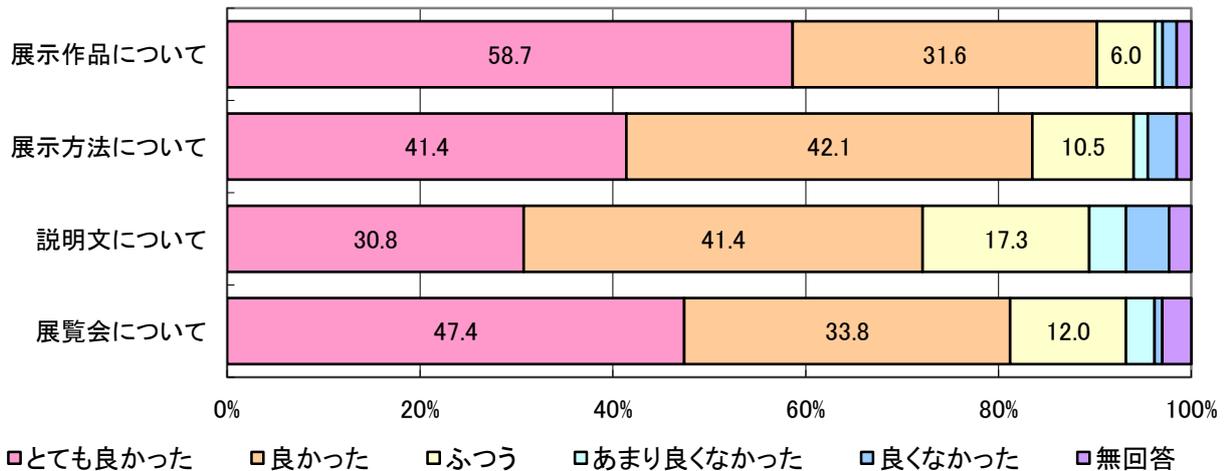


②認知経路(複数回答)



人

③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・ 本物の「支倉常長像」が見られて感動した。
- ・ リーフレットの内容が充実してよかった。
- ・ 総合文化展料金のみで特別展が鑑賞できてうれしかった。
- ・ 展示数が少なく残念。もっと関係資料を展示してほしい。
- ・ 英語での解説がもっと必要だと思う。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった	無回答
展示作品	0.8	1.5	1.5
展示方法	1.5	3.0	1.5
説明文	3.8	4.5	2.3
展覧会	3.0	0.8	3.0

(%)

本展覧会では、およそ400年前の慶長18年(1613)、仙台藩主伊達政宗の命を受け、「慶長遣欧使節(けいちょうけんおうしせつ)」としてヨーロッパに渡航した支倉常長がローマ教皇パウロ5世に謁見するため、ローマに入市した際の姿を描いたとされる肖像画を本館7室にて特別公開しました。400年前の日本とヨーロッパ、それぞれが見た「異国」の姿を留めた美術作品を通じ、日本とヨーロッパの文化交流の歴史を紹介する大変貴重な機会となり、5万人を超えるお客様にご来場いただきました。

アンケートの結果、81.2%の方々から「とても良かった」「良かった」と好意的な評価をいただいた他、展示作品全般に関しても多くの好評意見が寄せられました。一方で「本館改装中なのに、館内の案内掲示が少ない」「展示作品についての解説が乏しい。もっと詳細な説明がほしい」といった感想や展示方法等に関する要望・ご意見もいただきました。

今後も、お客様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めてまいります。

注)本特別展の総入館者数は総合文化展入館者数を使用しています。